

スクールインターンシップで学んだこと

文学部英文学科 3年次生

1 はじめに

今回の研修では、京都市内の公立中学校にお世話になりました。4年次の教育実習に向けて、中学生との関わり方を学びたいというのが参加理由でした。

2 活動内容

主な活動は授業見学です。授業時間割を見ながら、出来るだけたくさんの先生方の授業を見学できるように自分でスケジュールを組み、授業前に先生方にアポイントを取り、見学するという流れです。また、最終日に学校祭に参加させていただいた際は、生徒座席で体調不良者がいないか見守りながら、学年競技のビデオ撮影などもしました。さらに、研修中に3日間程度、部活動にも参加させていただきました。

3 学んだこと

学びはたくさんありましたが、ここでは授業の工夫と生徒との関わり方の2点に焦点を当て、紹介します。

授業については、生徒の思考を伴う発問の工夫の大切さを学びました。生徒の主体的な学びを達成するには、生徒に考えさせる、気づかせる、工夫は必要不可欠です。先生方はワークシートや授業の発問で、様々な方法で生徒の主体性を引き出していました。例えば、生徒に意見を求める際、「なぜ～か？」と問いかけるだけでなく、段階的な発問でヒントを散りばめる、選択肢を示すなど、様々な方法で生徒の言語化できない意思を引き出すことができます。生徒の学習状況や興味関心、授業中の反応を常に観察して、最適な発問をすることができるように授業研究をしようと思いました。

生徒との関わり方について私が難しいと思ったのは、生徒との距離の詰め方です。中学生は、研修生のような知らない大人に自分から話しかけに行くことは少ないです。研修の3日目あたりまでは「どこまで距離を詰めに行っているのか」と悩んでいるうちに、生徒とうまく会話のキャッチボールができないまま時間が過ぎてしまいました。そこで、担当教諭の方に、中学生とどのように関わればいいのかを相談しました。生徒と共有する時間が足りないこと、また、私自身の緊張した表情が伝わってしまっているのかもしれないと助言していただきました。まずは挨拶やちょっとした会話からはじめ、そのようなやり取りを重ねていくうちに少しずつ会話のキャッチボールができる関係ができていくため、会って数回話ただけでは心を開くことは難しいそうです。そのため、私のスクールインターンシップの10日間の研修期間では時間が足りず、難しいことでした。生徒との関わり方に重きを置いて経験したい方は、長期型の研修にして、何回も会話を重ねていくうちに関係性を築いていくということを実践してみるのも良いと思います。また、私は、緊張した表情を改善するために、まずは廊下ですれ違った生徒に元気に挨拶することを意識しました。研修4日目か

らは少し早く学校に行き、先生方とあいさつしながら生徒の登校を見守り、とにかくたくさん生徒の目を見て挨拶をしました。そのような取り組みをしているうちに、生徒と話するときもあまり緊張しなくなったからか、研修の終盤では徐々に生徒と会話のキャッチボールができるようになり、授業中にも生徒から質問してくれるなど、少し変化が見られて嬉しかったです。

4 スクールインターンシップの意義

スクールインターンシップの良さは、生徒や先生の「観察」をすることができる点です。私は研修中、職員室に席を置いていただきましたが、先生たちが空き時間に生徒の様子や授業で起こった出来事を共有している様子や、どのように授業準備しているかを見ることができました。また、授業中には先生の発問に対して生徒がどんな反応をしているのか、どんな時に手が止まるのかなどを観察することもとても勉強になります。もちろん、教育実習で実際に授業するときも生徒の反応を見て進めなければなりません、見学に徹することができるスクールインターンシップだからこそ、生徒の様子を細かく観察し、授業づくりに活かすことができます。

5 おわりに

スクールインターンシップを通して大学の教職の授業だけでは得られない学びを得ました。また、それだけではなく、生徒たちのことを考えて一生懸命働く先生方の姿を間近で見て、素直にかっこいいと感じました。研修前よりも教職の勉強にモチベーション高く取り組むことが出来そうです。教師を志している人だけでなく、教師になるか迷っている人にとっても、自分の課題と向き合いながら研修に臨むことでとても実りのある時間が得られると思います。